

平成 22 年 12 月 13 日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所
所長 岡田憲夫

教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とした全国共同利用の研究所であり、5 研究部門・6 附属研究センターによって構成されています。平成 22 年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」と認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多忙中の所、まことに恐縮でございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 公募人員：准教授 1 名
2. 所属：大気・水研究グループ 流域災害研究センター流域圏観測研究領域
3. 研究内容等：地球温暖化により、河川域および沿岸域においては、流れや波浪条件が大きく変化する可能性がある。このような状況を踏まえて、河川域と沿岸域を含む広い水域での土砂移動特性に関する観測を中心とした研究、および現地観測データを活用した沿岸防災研究を、防災研究所の関連研究者と連携して実施する。また、京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻の教育を担当する予定である。
4. 任用時期：可能な限り早い時期
5. 勤務地：白浜海象観測所
住所；〒649-2201 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田2347-6
6. 応募資格：博士学位を有すること。
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
7. 提出書類：次の(1)～(6) 各一式
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧（審査付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたものの一覧表）
 - (3) 主要論文別刷（コピー可） 5 編
 - (4) 研究業績の概要（A4 用紙 2 枚以内）
 - (5) 今後の研究計画及び抱負（A4 用紙 3 枚以内：説明図の添付可）
（これまでの実績を踏まえて観測所における研究に、どのような貢献を行うか、応募者の考えを示すこと。）
 - (6) 推薦書または応募者について意見を伺える方（2 名）の氏名と連絡先
8. 書類提出先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学宇治地区事務部
防災研究所担当事務室長 鈴木良平 気付

流域災害研究センター 流域圏観測研究領域 准教授候補者選考委員会 宛
(封筒の表に「**教員応募書類在中**」と**朱書き**し、郵便の場合は書留にすること)

9. 公募締切：平成23年2月14日(月) 【必着】

10. 問い合わせ先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学宇治地区事務部

防災研究所担当事務室長 鈴木良平 気付

流域災害研究センター 流域圏観測研究領域 准教授候補者選考委員会

e-mail: apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp

(封書または電子メールに限る)

11. その他：白浜海象観測所の勤務においては、2級小型船舶操縦士免許を取得しているか、あるいは、採用後、速やかに取得することが望ましい。

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

流域災害研究センターの概要

1. 研究目的及び研究内容の概要

流域災害研究センターでは、当センターが有する隔地観測所・実験所（宇治川オープンラボラトリー、穂高砂防観測所、潮岬風力実験所、白浜海象観測所、大湊波浪観測所）を共同利用の場として有効に利活用し、学内外の研究者による共同研究を積極的に推進するとともに、当センターの各研究領域および当センターが属する大気・水研究グループと緊密な連携を図りながら、大気、水、土砂等の不均衡によって生じる流域・沿岸域での各種災害の発生機構を観測、実験、モデリングを通して解明し、それらの災害の予知・予測研究を推進し、講ずるべき諸対策について考案することを目的としている。現在、流砂災害研究領域、都市耐水研究領域、河川防災システム研究領域、沿岸域土砂環境研究領域、流域圏観測研究領域の5研究領域から構成されている。今回の公募対象である白浜海象観測所担当准教授は、これらの研究領域と連携して、観測研究および運営を行う。

流砂災害研究領域（所在地：京都市伏見区横大路下三栖 宇治川オープンラボラトリー内）

流域の土砂生産流出現象を個々の現象としてだけでなく、流砂系全体の現象として捉え、流域一貫した土砂動態の解明と予測手法の開発を推進する。

都市耐水研究領域（所在地：宇治市五ヶ庄）

都市流域を主な対象として、洪水、高潮などの外水や内水域の豪雨、それらの重畳による都市水害の発生機構や都市環境の変化が水災害に及ぼす影響を解明する。

河川防災システム研究領域（所在地：京都市伏見区横大路下三栖 宇治川オープンラボラトリー内）

流域一貫した河川防災システムの構築を命題とし、河川災害や土砂災害などの発生機構及び被害の防止軽減方策を観測・水理模型実験・数値シミュレーションなどの手法を用いて考究する。

沿岸域土砂環境研究領域（所在地：京都市伏見区横大路下三栖 宇治川オープンラボラトリー内）

沿岸域の土砂動態を的確に評価し、多様な生態系と調和した親水空間の安全性確保と海岸侵食防止方策を推進するために、砂丘地形の地下水変動、河口部における河川氾濫や津波による土砂堆

積過程、海洋における砕波による大気中の CO₂ 吸収効果などを白浜海象観測所等の沿岸部における観測所と連携して解明する。

流域圏観測研究領域（所在地：宇治市五ヶ庄）

気象・流域水象・海象をシステムとして捉えるための大気・陸面・海洋の相互作用の観測を実施し、観測事実に基づいて流域・沿岸域における流体災害の発生機構の実現象を究明するとともに、災害環境変動過程の予測システムを構築する。隔地観測施設としては、穂高砂防観測所は、山地・火山域の災害研究の観測研究拠点として位置づけられ、白浜海象観測所は、潮岬風力実験所と一体化した沿岸域の災害環境の観測拠点として位置づけられており、大潟波浪観測所とも連携を図る。

2. 現在の教員構成（平成 22 年 12 月 1 日現在）

研究領域	【教授】	【准教授】	【助教】
流砂災害研究領域	藤田正治	竹林洋史	宮田秀介（穂高勤務）
都市耐水研究領域	戸田圭一	米山 望	
河川防災システム研究領域	中川 一	川池健司	馬場康之 張 浩 東 良慶
沿岸域土砂環境研究領域	平石哲也		
流域圏観測研究領域		堤 大三* 林 泰一 (今回の公募) **	(選考準備中) **

(注記) * 穂高砂防観測所勤務
** 白浜海象観測所勤務

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記ホームページをご参照ください。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp>

以上